鳥取大学医学部附属病院 研修センタ たより





鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修 における研修理念

将来、社会が求める最適な医療を、安全に配慮して提供できる 優れた医療人となるために、

- 1. 医師としての基本的価値観(社会的使命、利他的態度、思いやり、 自己向上心)を身につける。
- 2. 医学や医療に関する倫理原則を理解し行動する。
- 3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に対応できる基本的な診療能力を身につける。
- 4. 常に最新の医学知識の獲得に努めるとともに、科学的探究心を持ち、地域社会や国際社会、 公衆衛生への貢献をめざす。
- 5. 他の医師や医療者と共に医療を行い、学び、互いに敬意をはらう姿勢を身につける。

1PD TOPICS

2P▶ 指導医講習会 地域医療学講座 今岡慎太郎 3P▶ 卒後初期臨床研修修了式

4P▶ ベストレジデント賞 安田健悟、西上美侑

5P▶ 活躍!先輩ドクター 眼科 佐々木慎一

GOZZOで推しメシっ! 研修医 堂坂怜香

6P▶ 医局探訪 感染症内科 中本成紀



10月23日(土)に2年ぶりとなる結紮王!!~縫合・結紮コンテスト~を開催いたしました。8月初旬にはコロナの第5波により開催が危ぶまれましたが、忍耐強く開催判断を待った結果、9月後半には感染状況も小康状態となり、梅雨の晴れ間のような一時をついて開催にこぎつけることができました。

開催にあたっては本院感染制御部の指示を仰ぎ、会場の換気、手指消毒の他、他院からの参加者は全員体調管理表提出、山陰地区外からの参加者については前日のPCR検査陰性の確認などを行いました。お越しいただいた皆様にはご協力ありがとうございました。

今回は本院と山陰たすきがけプログラムにご参画の6機 関、合わせて7機関より、13名の研修医が出場しました。これまでに比べ少人数でしたが、例年になく「我こそは!」と瞳に炎が見えそうな、勝つ気満々の研修医が多く、熱い戦い が繰り広げられました。

コンテストは2部門制で、縫合部門は時間内に指定の長さの創をいかに上手に美しく、リズムよい運針で縫われたか、 縫合部門は筋膜シミュレーターを用いて腹壁縫合で糸結び が緩まないようにすることを想定し、いかに強く糸を結紮する か、を競います。

今年は鳥取県立中央病院の2年目研修医山根和真先生が両部門を制して総合優勝に輝きました。山根先生は学生の時から「結紮王!!」にご参加下さっていて、こうしたイベントを通して、外科医になりたいという思いを更に強くされ、4月からは本院の外科専攻医となることが決まっています。実際に外科医としての実践強化にもなり、コンテストを通してより手技を磨き、自信をつけて下さったことと思います。



今年度の臨床研修

マッチング結果、について

今年度も医科で3回、歯科で4回の採用試験を計画し、マッチングに参加しました。採用試験の受験者数は昨年度比で医科が129%に増加する一方で、歯科は44.4%に半減しています。マッチ者の実数は医科で15名(前年12)、歯科で3名(前年4)でした。

医科については引き続きの二次募集に応募者があり、 複数名を追加採用の予定にしております。

また、鳥取県全体では昨年度47名だったマッチ者は40名となり、総定員83名の50%を切る結果となりました。

初期研修だけでなく、3年目以降もこの地域の医師として次世代を担っていく人材が多くなるよう、研究や先端 医療を含む専門研修などの情報提供を強化していくとと もに、初期研修については、この地域の医師となるための 起点としての側面も踏まえ、「研修の良い点→病院の良い 点→この地域の良い点」といった「広がり」を意識した広報を進めていきたいと思っております。

令和3年度 鳥取県臨床研修セミナー





令和4年1月28日(金)鳥取大学医学部附属病院で、今年度の鳥取県臨床研修セミナーを開催しました。鳥大会場より各基幹型病院および各個人へWEB配信し、全体で研修医 78名、指導医・上級医3名が参加しました。

今回は、当院がんセンター 上田恵巳 看護師長を講師に迎え、医師臨床研修において必須研修のひとつであるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)をテーマに、ACPの成り立ちや現状、問題点など詳しくお話しいただきました。



鳥取大学卒後臨床研修 指導医講習会 に参加して

地域医療学講座 今岡 慎太郎

12月11、12日に臨床研修指導医講習会に参加させていただきました。講習会に参加しての感想や私なりの気づきを紹介させていただきたいと思います。

まず1日目で印象に残っ

たのは臨床研修計画書を作成するグループワークでした。私たちのグループでは「患者 - 医師関係」をテーマに計画書を作成しました。医師としての人格涵養に関わる重要なテーマですが、一方で診療能力の習得とは異なってイメージがつかみにくい部分もあり具体的な時期や費用まで含めて計画を考えるのは一苦労だと感じました。

2日目で印象に残っているのはロールプレイ研修です。



私は「心筋梗塞のために心窩 部痛を訴えていた患者を胃炎 として帰宅させてしまった研 修医」の役を担当しました。 緩和ケア研修会を受けた時に がん告知のロールプレイをし たことがありますが、例え仮 の設定だったとしても、がん

と言われた時には気持ちが落ち込んだことを覚えています。今回のロールプレイでも自分のミスに愕然とする気持ちに対して指導医の先生に温かい声かけをいただくことでより冷静な振り返りが出来るように感じました。

今回学んだことを今後の業務に生かしていきたいと 思います。最後になりましたが、今回オンライン開催で 様々な事前準備や調整が必要な中、この講習会を設け て下さった先生方や事務局の皆様に深謝申し上げます。

令和3年度

卒後初期臨床研修修了式

を執り行いました

長く寒かった雪の季節もようやく春めいてきた3月23日(水)、今年度の臨床研修修了式を執り行いました。 この日、医科の2年目11名と、歯科の4名に臨床研修修了証が交付され、病院長以下関係者で修了生15名の 門出を祝いました。

また、この日は今年度のベストレジデント賞と優秀指導医賞の表彰も行われ、ベストレジデントとして2名の修了生が、優秀指導医として(山本章裕先生、岡崎亮太先生、生越智文先生、宮谷幸造先生、横山浩己先生、岸本諭先生、花木武彦先生、吉岡早戸先生、遠藤涼先生、本田正史先生、夕永裕士先生)が賞状と副賞を授与されました。今年から優秀指導医賞の副賞ピンバッジが新しくなり、過去に何度か受賞されている指導医にも喜んでいただきました。



優秀指導医賞

授賞式当日にご出席 いただいた先生方です。

> 写真左から 宮谷 幸造 先生 遠藤 涼 先生 花木 武彦 先生



写真左から 安田 健悟 研修医 西上 美佑 研修医

受 賞 の 言 葉

安田 健悟

研修医2年目の安田健悟と 申します。この度はベストレジ デント賞を頂戴し誠に光栄に存 じます。副賞の白衣にも大変喜 んでおります。

私は学生時代より当院の呼吸器外科への入局を考えておりました。そのため、より将来を意識した研修をしたいと思い、当院の外科専門プログラムでの研修を選択し、全国の有名研修病院にひけをとらない研修を目標に医師1年目をスタートしました。

研修は大学中心で、鳥取大学で20ヵ月、山陰労災病院で2ヵ月、松江赤十字病院で1ヵ月、奈義ファミリークリニックで1ヵ月過ごしました。一般外科8ヵ月を1年目で研修するという個性的なローテーションに加え、研修をしていく中で自分に必要と感じた診療科を適宜取り入れていくことで市中病院での研修も含めた充実した初期研修となりました。

鳥大では数々のカンファレンスや抄読会、学会発表、論文 執筆など自分のやりたいことができる環境が整っており、 思い通り以上の研修ができたと考えております。ご多忙中 にもかかわらずお力添えいただいた先生方には大変感謝 しております。

必修科の研修においても、積極的にやろうという考えで研修に臨み、指導医の先生方には各科の一般的な内容に加え、呼吸器外科医として把握しておくべき内容など幅広くご指導いただきました。研修の終盤に救急科でICU管理を学ぶ中で、これまで習得した各疾患の知識や基本的手技を総復習することができ、2年間の研修で学んだ医療の積み重ねを実感しました。

今後も引き続き研鑚を積み、日々精進してまいりたいと 存じます。最後になりましたが、各診療科の先生方、医療ス タッフ、卒後臨床研修センターをはじめ、お世話になった 方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

西上 美侑

研修医2年目の西上美侑と 申します。この度はこのような 素晴らしい賞を頂戴し、誠に光 栄に存じます。ここまで指導し

ていただいた各診療科の先生方や、サポートしてくださった卒後臨床研修センターをはじめとする関係部署の皆様のお力添えあってのことと身に染みて感じております。

私は山陰たすきがけプログラムで1年目は松江市立病院、2年目は鳥取大学医学部附属病院で研修を行いました。この2年間を振り返ると、研修医としては至らないところばかりでしたが、トライ&エラーを繰り返しながらなんとかやってきました。手技で失敗して患者さんや先生方にご迷惑をおかけすることもありましたが、指導医の先生は常

に冷静に対処してくださり、どうすればよかったかを適切 に指導していただきました。そうして次に向かうことで、少 しずつ自信を持ってできることが増えていきました。不出来 な私に診療を任せてくださり、辛抱強く見守り、指導してく ださった先生方には感謝の言葉もございません。

悩んだり迷ったりしながら進んできた研修生活でしたが、非常に充実した日々を過ごすことができました。2年間積み重ねてきたことが、このような形で評価いただけたことを大変嬉しく思います。

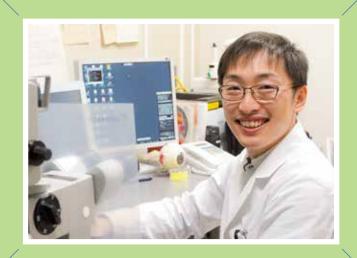
最後になりましたが、このような賞をいただけたことを心から感謝するとともに、今後とも多くの人たちにお力添えを頂きながら、ひたむきに診療に臨んでまいります。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

活躍!

先輩ドクター

【第3回】

眼 科佐々木 慎一 医師



研修医の皆様、眼科の佐々木と申します。私は2004年に鳥取大学を卒業し、現在の初期臨床研修制度の第一期生として鳥大病院での研修を選択しました。当時はまだ外病院での研修が今ほどメジャーではなかったため、同期が40人近くいて、その都度大勢で各科を回ったことを覚えています。

制度が変わったばかりで多くの研修医が当初から入局先を 決めていた時代でした。私自身も卒業前には入局を決めていた ため、各科の先生方には眼科と決まっている研修医に対しても 熱心に指導して頂き、大変ありがたい思いでした。ただ10年以 上眼科を続けていると、当時学んだことも臨床で実践する場面 は極めて限られ、せっかく学んだ知識も思い出程度になってし まっているのは心苦しいところです。

初期研修2年目は自由選択期間をすべて眼科で回りました。その後は医局人事で関連病院へ出向し、帰局後は大学院で基礎研究を行いました。専門医取得後、和歌山県や隠岐でのへき地医療を経験し、2014年から再び当院で勤務しています。

現在は網膜硝子体疾患を専門として、網膜剥離や黄斑疾患などに対して硝子体手術を中心とした外科的治療を主に担当しています。

私が眼科医を志したのは、私自身が幼少時より弱視治療を受けており(おかげで眼科手術ができるまでの視機能を獲得しました!)、刷り込み効果でしょうか、その印象から自然と眼科医を意識したからです。また望遠鏡や顕微鏡といった光学機器が好きで、診察にも手術にも常にレンズを使用する眼科のスタイルに憧れたことも選択の一因です。

ストレート入局に近い形で参考にならないかもしれませんが、いわゆるマイナー科を選択した今でも、初期臨床研修は医師になったばかりの未熟な段階で、臨床についての広い視野を獲得する貴重な経験だったと思います。個人的には眼科という明確な進路があって、研修の方向性がより定まったと思っていますが、これは人それぞれでしょうか。皆様の研修が実り多いことを祈っています。





堂坂 怜香 先生

研修医が超ペテラン指導医と職員食堂GOZZOにてサシでご飯を食べながら対談する企画 第3弾!・・・となるはずだったコーナーですが、新型コロナウイルス第6波の影響で、やむなく中止しました。そこで、緊急企画! 研修医にGOZZOの気になるメニューを紹介していただきました!

今回、取材に協力してくださったのは、1年目研修医、堂坂恰香先生です。今日のメニューの中で、「『ユーリンチー定食』が食べてみたいです!」とのことで、やってきました。堂坂先生は、「GOZZOのお弁当は420円と安いので普段よく食べますが、食堂へ来るとできたてなので美味しいです」とペロリ。研修がスタートしたばかりのはは、研修医の同期みんなで食べに来たこともあったそうですよ。堂坂先生ご自身は取材の直前まで他院での研修だったということもあってか、「職員食堂も充実していて、やっぱ鳥大いいですね★」と久しぶりの職員食堂を満喫され、また研修へと戻られました。

お忙しい中ありがとうございました。

近年の新型コロナウイルス感染の流行に伴い、何かと話題にあがることが増えた感染 症内科です。

鳥取大学医学部附属病院に感染症内科が設立したのが2013年の夏ですので、比較的新しい診療科ということになります。当院の第二種感染症指定医療機関への指定に合わせて開設したものであり、当科が設立した頃は感染症内科のある大学病院は非常に少ないものでした。そのため研修医に限らず多くの医療者にとって、どのような業務をしているのかあまり知られていなかったと思います。感染制御部的なことをしているだけのように思われがちですが、実際は個々の患者さんを直接診察し、より適切な治療を行っていくことを目標に内科系診療部門の一部として外来、入院診療を行っております。また血液培養陽性症例や難治性感染症例などにおいて、様々な診療科と併診という形で関わらせていただいております。その他にもトラベルクリニック(輸入感染症)、HIV感染症、不明熱外来などの業務もありますが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の対応(陽性患者の入院診療、コロナ後遺症外来など)も主な業務になってきております。

この度の新型コロナの流行を機に全国的に感染症専門医の必要性が高まっているところですが、国の方針として全国的に臨床感染症学の部門が出来つつあります。本学では全国に先駆けて2020年11月に鳥取県寄附講座として臨床感染症学講座が開講しました。本講座は感染症内科と一体となって専門医育成と地域貢献を目指しており、現在大学院生4名と留学生1名が在籍し、診療と並行して教育と研究も行っております。研修という点においては、関連病院を含めて現在5名の後期研修医が在籍し日々臨床経験を積んでおり、その中で内科専門医を経て感染症専門医というキャリアパスを提供しております。

当初は2名の医師でスタートした当科も現在では11名(含関連病院4名)にまで増えてまいりました。新しい診療科であるがゆえ歴史はありませんが、伝統にとらわれず何にでも挑戦できる自由な環境が整っていると思いますので、若い先生におかれましては、ぜひ感染症内科で一緒に仕事ができたらと思っております。



感染症 内 科

中本 成紀





令和4年度前半

4月1日(金)	鳥取大学医学部附属病院医療系職員オリエンテーション(WEB)
4月2日(土)	鳥大JMECC(医科1年目研修医)
4月4日(月)	JMECCの振替休日(医科1年目研修医)
4月5日(火)	研修医プレローテーション開始
4月12日(火)	研修科での研修開始予定(1年目研修医)
5 月	臨床研修合同説明会(本院主催)
7月下旬)	
}	医科で計3回、歯科で計4回の研修医採用試験を実施予定です
9月下旬	
8月~9月	NPO法人卒後臨床研修評価機構 実地評価受審
9月30日(金)	医科マッチング中間公表

最後に質問です!

"医師臨床研修で 経験必須の研修"

ご存知でしょうか?

- 感染対策(院内感染や性感染症)
- ♪ 予防医療(健診・健康指導、予防接種等)
- 虐待への対応(主に児童虐待)
- ♪ 社会復帰支援(退院支援カンファレンスの参加等)
- 緩和ケア
- ♪ アドバンス・ケア・プランニング(意思決定支援の場への参加等)
- ♪ 臨床病理検討会(CPC)



指導者のみなさん、臨床現場で

左記の機会があれば、ぜひ研修医に

お声がけください!

編集後記

最後まで読んでいただきありがとうございました。

今年度後半は、結紮王コンテストや指導医講習会など、昨年度は開催できなかったイベントが開催でき安堵しております。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は下記の連絡先までご一報ください。(矢田貝菜津子)



鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1 TEL 0859-38-7025 FAX 0859-38-6974

E-mail jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/